

| | | | | | |
|----------|---------------------|------|----------|-------|---------|
| 授業科目 | 認知・コミュニケーション障害支援学概論 | | | | |
| 担当者 | 山口忍・松井理直・井口知也 | | | | (オムニバス) |
| 実務経験者の概要 | | | | | |
| 学科名 | 保健医療学研究科 | 学 年 | 1年 or 2年 | 総単位数 | 2単位 |
| | | 開講時期 | 前期 | 選択・必修 | 必修 |

■ 内 容

各領域におけるセラピストの評価目的，実施手順，実施上の留意点について学習し，それらを十分に理解した上で，具体的な評価技術を習得する。

■ 到達目標

面接，観察，検査，測定，計測から得られる結果（情報）を整理，分析し，結果の意味及びそれらが示す対象者の障害について理解できるようになる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 認知症の病態理解とコミュニケーションについての概要
- 第3回 認知症者に対するコミュニケーション方法①（アルツハイマー型認知症，脳血管性認知症）
- 第4回 認知症者に対するコミュニケーション方法②（前頭側頭型認知症，レビー小体型認知症，MCI）
- 第5回 認知症者に対するコミュニケーション方法③（APCDを用いたニーズ評価）
- 第6回 事例の臨床像から病態解釈と効果的なコミュニケーション方法を検討する
- 第7回 筋の微細構造：構音障害・嚥下障害の訓練のために「運動器にアプローチする」
- 第8回 筋の微細形態と酵素組織化学：臨床所見との関連
- 第9回 聴覚障害がもたらすもの（1）：言語習得後失聴の成人で、人工内耳装用効果が不十分な症例に関する検討
- 第10回 聴覚障害がもたらすもの（2）：自己の形成と養育に必要な観点
- 第11回 医療の発展がセラピストに与えるもの
- 第12回 聴覚と言語との関わり
- 第13回 認知機能の特性と言語との関わり：特に推論機能を中心として
- 第14回 現代言語学に基づく言語機能の分類
- 第15回 言語とコミュニケーションに関する総合的な論議

■ 評価方法

授業中の議論および最終提出物

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各回の内容にもよるが、おおよそ予習・復習とも、約1時間程度。

■ 教科書

書 名：授業中に指定する

■ 参考図書

書 名：授業中に指定する

■ 留意事項

| |
|--|
| |
|--|

■ 講義受講にあたって